

国語科学習指導案

日 時：2004年10月28日（木）5教時
生 徒：銀山中学校第1学年
男子5名・女子6名 計11名
授業者：高橋純子

1 単元名 言葉のきまり－言葉の単位－

2 単元について

(1) 単元の位置付け

本単元は、いわゆる「日本語（口語）文法」である。第1学年で学習する文法は、〈言葉の単位〉〈文の成分〉〈単語のいろいろ〉〈活用のない自立語〉の4つのパートに分けられ、文学的文章、説明的文章など大きな単元の区切りごとに配置されており、教科書での文法の扱いは、時期を隔てて4つに分けられている。未習の外国語であれば、ステップバイステップで文法事項に触れていかなければならないだろうが、日本語文法は、生徒が「文法を知らなくてもとりあえずほぼ正確な日本語を話している」という、外国語の習得とは異なる立場からスタートする。外国語が「理解する」「操作する」など「手段」のひとつとして文法事項を学習するのに対して、日本語（口語）文法は、「普段使っている日本語」の中から文法事項（言語としての規則性）をあらためて掘り起こし、「普段使っている日本語」の構成についてあらためて認識するという違いがある。

しかし、それでは生徒にとって日本語（口語）文法は、理解や習得がたやすい分野かという点、必ずしもそうとは言えない。普段流暢に話している母国語ではあるが、文法事項となると苦手とする生徒が多く見られ、また、既習事項の定着もあまりよくないといった感がある。苦手であり、定着が容易でない・・・こういった状況を踏まえ、ここ数年、教科書では4つのパートに分けられて配置されている文法事項の学習を、ひとつの大きな単元にまとめて指導するという方法をとって来た。あるまとまった時間、系統立てて学習することによって文法事項の定着をはかりたい・・・という意図をもって教科書の教材の配置から単元構成を大きく組み替えて行うこととした。

(2) 本時の題材について

本時の題材は、今年度の文法事項のスタートである〈言葉の単位〉を扱う。ここでは、「文」「文章」「段落」を定義付け、次の〈文の成分〉を考えるための基礎としての「文節」や「単語」について学習する。

普段の会話の中で曖昧に使っている「文」や「文章」について正確に認識させるとともに、「文節」と「単語」の区切り方の違いについてワークシートを活用し、考えを深める中で、本校の研究主題にある「主体的に物事に取り組む」ことを中心に取り組んでいきたいと考えている。

3 生徒について

明るく素直で一生懸命に取り組む学級であるが、やや積極性に欠ける部分が気になる。また、体調や気分によって、学習への取り組みにムラが見られることがある。

国語の力としては、読み取ることや考えることは苦手ではないが、自分の考えをまとめて話したり、根拠を明らかにして説明することが苦手である。普段は大変おしゃべり好きであるが、公の場で話をする時には、うまく文章が組み立てられず、単語を並べたり、聞き手に助けられながら自分の考えを伝える場面が多々見られる。また、世相を反映してか言葉を省略して話したり、語句の間違った使い方が目立つため、日ごろから「きちんと話す」という指導を心がけているが、なかなか定着しない。

本時においては、自分の考えとその根拠について、しっかりと相手に伝わる話し方で発表できるように指導していきたい。

3 指導目標と本単元の全体計画および評価計画

単元名 言葉のきまり (8時間扱い)							
各時の目標	配当時間	学習内容	評価の観点			評価規準	評価の場面
			関	調	知		
目 標							
		①日本語(口語)の構成に興味を持ち、普段あたりまえに使っている日本語の文法について理解しようとすることができる。 <関心・意欲・態度>					
		②自分の考えとその根拠についてしっかりと相手に伝わるように話すことができ、他の考えをしっかりと聞くことができる。 <話す・聞く>					
		③言葉の単位(文・文章・段落・文節・単語)文の成分(主語・述語・修飾語など)、単語のいろいろ(自立語と付属語、活用がある・ない)、活用のない自立語(名詞・連体詞・副詞など)などのはたらきについて理解し、文を正確に理解するための基礎学力を身につけることができる。 <言語に関する知識・理解>					
③	1	文章・段落・文とはどんなものであるか理解する		○	○	・日常的に混同して使っている「文」と「文章」の文法的な意味での違いについて理解できる。 ・文章を段落に区切ることができる。	ワークシートによる作業 発問に対する答え
① ② ③	1・本時	文節の区切り方について理解し、文節はさらに単語に区切ることができることを理解する。	○	○	○	・ワークシートに意欲を持って取り組むことができる。 ・文節の区切り方について、自分の考えを根拠に基づいて発表することができる。 ・文節の区切り方と単語の区切り方について理解することができる。	ワークシートによる作業 発表
① ③	2	文の中で、主述の関係、修飾・被修飾の関係、接続の関係、並立の関係、補助の関係について理解する。	○		○	・文の成分の関係について、日常使っている言葉に目を向けて考えることができる。 ・文を構成する構成要素どうしの関係について理解することができる。	ワークシートによる作業 発問に対する答え
③	2	自立語と付属語、活用のある単語と活用のない単語を通して単語を分類する基礎的な考え方を理解する。			○	・自立語と付属語、活用のある単語とない単語の学習を通して、品詞の分類の基礎を理解することができる。	ワークシートによる作業 発問に対する答え
① ③	2	名詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞の学習を通して活用のない自立語について理解することができる。	○		○	・日常使っている言葉の中から、活用のない自立語をさがそうとする。 ・活用のない自立語の特徴について理解することができる。	ワークシートによる作業 発表 発問に対する答え

4 本時案

(1) 目標

- ・文節の区切り方について理解し、文節がさらに単語に区切ることができることを理解することができる。
- ・自分の考えについてしっかりと相手に伝わるように話すことができる。

(2) 展開

	生徒の活動	教師の活動	関	調	知	留意点
課題把握① 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起する。 ・本時の課題の1つめを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「すももももももものうち。」 「はははははのひにはははぬかない。」 を区切ってみよう。 この区切り方に共通することは何だろう？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起させる。 ・本時の課題の1つめを提示する 	○			本時は「文」に注目することに留意させる。
課題解決① 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすくするための方法を考え、ワークシートに書き込む。 ・ワークシートの書き込みをもとに発表する。 ・「文節」という区切り方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなを漢字に直さずに読みやすくする方法を考えよう。 ・それぞれの方法を発表してみよう。 ・このような区切り方を「文節」という。 	○		○	それぞれの発想を大事にし、言葉で説明できるよう援助
課題把握② 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題の2つめを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「すももも ももも ももの うち。」 「ははは ははのひには はは ぬかない。」 を、さらに細かく区切ることはできないだろうか？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題の2つめを提示する。 	○			
課題解決② 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにさらに細かく切った区切りを書き込む ・考えや根拠をもとに発表する。 ・「文節」よりもさらに小さい単位として「単語」があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この文をさらに細かく区切ってみよう。 ・なぜそこで区切ることができるのか。区切ったそれぞれの部分は何なのか考えて発表しよう。 ・「文節」はさらに「単語」に分けられる。 	○		○	日常生活や小学校で学習した文法事項を想起させる。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・「文節」とは何か「単語」とは何かについて再確認する。 ・次時予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文節」と「単語」について再確認する。 ・次時予告をする。 	○		○	

- (3) 評価
- ・文を文節と単語に分けることができる。
 - ・自分の考えを他にわかるように伝えることができる。
- <基準A>他の意見を聞き、自分の考えと比較してさらに自分の考えを深めることができる。

文を分解してみたら……《初級編の1》

さてさて「言葉のきまりの学習」の第二段階は「文」に注目！

さて、次の「文」は、どう区切ったら声に出して読みやすくなるのかな？漢字を使わずひらがなだけで、読みやすくなるように区切ってみよう。まずは《初級編》。たぶんこの「文」をどう読むのかよく知っている・・・よね？

さあ、声に出して読む時に読みやすくなるように区切ってみよう！

すももももももももものうち。

←

区切ったかな？じゃあ、なぜアナタはそんなふうに区切ったのかな？理由を書いてみよう。

文を分解してみたら……《初級編の2》

さあ、「すもももももものうち」は上手く区切れたかな？

次はちよつと難しいかも。

次の「文」を「すももももものうち」と同じように、声に出して読む時に読みやすくなるように区切ってみよう。

はははははのひにははははぬかない。



では、「すもももももものうち。」と「はははははのひにはははぬかない。」の区切り方に共通することはないだろうか？声に出して読むときに読みやすい……とはどんなことなんだろう？考えてみよう。

1年生 言葉のきまりの学習その2

文を分解してみたら……《発展編》

「すもももももももものうち」と、「ははははははのひにはははぬかない」のそれぞれの文を、「文節」に分けることができました。でも、実は文節をさらに細かく分けることができます。「すももももももものうち」を使って、文節をさらに細かく分けてみよう。

すもももももももものうち。



Blank box for student response.

分けたかな？じゃあ、なぜアタはそんなふうに分けたのかな？そんなふうに分けた理由を書いてみよう。

Large blank box for student response.